

ぼくのノオト

④9 走り続ける

世界には、ゴミの山で仕事をする子どもたちがいる。かつて訪れたバン格拉ディッシュでは、生きる糧としてのゴミさえなく、小枝や枯葉を拾い集める人たちがいた。

そのバングラディッシュのサッカーチームでプレーする、一人の日本人がいる。

加藤友介、高校卒業後プロの選手としてアルゼンチンに渡った。退団後も「どこでもいい。サッカーがしたい」と、インドやタイなどの国々を渡り歩いた。

彼のチームは、現在コロナ禍による資金難で、存続の危機に立たされている。

「俺たちはプロだ。試合ができるようになった時のために、今は練習しよう」。彼はチームメイトに訴え、厳しい練習を続けながら、SNSなどで資金集めの活動も始めた。

大好きなサッカーのために走り続ける。そんな選手に、夢を抱く子どもたちが、今も街角でボールを蹴っていることだろう。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操